

真実をあぶりだし 真のリーダーを！

(平成29年7月7日 ~ 7月8日 第31回世界天才会議 出展論文)

ドクター中松 ゴールド会員 高橋 弘子

- 1、人間は、生きて極楽を味わえる筈なのか、それとも味わえないのか
もし、生きることが苦しみであり、不愉快なことばかりがあると、
生きて極楽を味わえるなんて、とんでもないと、反論されるだろう。
どうして、人間は、人間同士で傷つけあうのだろう。
どうして、人間は、己が一番でなければならぬと、争い合うので
あろうか。

世界を眺めてみた時に、世界に平和と平等をと、叫んでいるソバから、
他の国を侵略したり、殺戮したりして、殺し合いがなくなる。

現実には、世界の大国の米国は、アラブの春ということをお口に、戦争を起こし、その国の人々を、
春ではなく、冬にし、難民化させている現実を見つめた時、そこには虚構のストーリーがあった
ということをお認識しなければならない。それが真実というものである。

しかし、人々は、そこに触れたがらない人も多く存在する。真実が目の前に現れていることにも、



そこから目をそむけ、美辞麗句ですり替えていく。

これでは、やられた方は、憎しみが増大し、殺し合いが始まることも想定される。生き極楽とは、とてもいかないわけである。

2、ポスト・トゥルースという言葉が、2016年世界の言葉であると、オックスフォード英語辞書が「post-truth(ポスト真実)を発表した。客観的事実よりも感情的な訴えかけの方が世論形成に大きく影響する状況を示す形容詞だという。

実際に、メディアが煽ってきたのは、ヒラリーであり、トランプではなかったが、現実には、客観的事実よりも、感情的な訴えで、トランプが世論形成で、大きく影響させたということを説明している。

しかし、現実には、ヒラリーでよかったのかどうか。

ヒラリーメール問題で明らかになったひとつに、



『シリア「隠密」行動がある。国務長官を2013年2月に退任した4カ月後、クリントン氏はゴールドマン・サックスの有料講演会で、秘密裏にシリアに介入したいと述べていたという。

ロイド・ブランクファイン会長兼 CEO の質問に答え、クリントン氏は「米国として可能な限り隠密に、介入するべきだと考えていた」と話したという。これは、他国に軍事介入して、人々を殺戮させあうことを意味する。ヒラリーメール問題という、イメージ的に、国家機密を私的なメールを使ったという単純なイメージにすり替えようとしている。しかし事実は、もっと重大な内容があるということである。

ポスト トゥルースという言葉は、イメージでなく、具体的に真実を暴いて、何が問題なのかを追求することという意味に置き換えるべきである。

実際に米労働統計局が 2015 年 4 月に公表した所得ベースは、2014 年 7 月までの 1 年間で、

所得が増えた層は、上位 20% の層のみで、それ以下は、2%、逆に減少しているのである。

アメリカの経済は、エリート層ばかりが富を占有し、中・低所得層には、富の配分が回って

こないという現実である。

3、 オルト・ライトという言葉も生まれてきた。Alt-right は、何かへの支持というより、何かへ

の反発が特徴とされる。現在の社会の主流派、メディア、政治家、ビジネスエリート、学者などへの反発を意味している。

社会の主流派らによって推し進められる現実社会で、当然のように正しいことと押しつけられている多文化主義、ポリテカル・コレクトネス、移民推進、フェミニズムについて、疑問を抱いているが、それに異議を唱えると差別主義者呼ばわりされる現代の社会への反発であり、主流派メディアがヒラリーを露骨にこり押ししている反発。ポリテカル・コレクトネス（political correctness、略称：PC、ポリコレ）とは、日本語で政治的に正しい言葉遣いとも呼ばれる）で、がんじがらめになって、言いたいことも言えない世の中への反発も意味している。

移民推進というが、実際は難民を受け入れることをよしとしていない国が多い。国をひとつにまとめようとしても、言葉も違い、コミュニケーションがうまく伝わらなければ、モノゴトがスムーズに行えない。仕事の面でも、効率が悪くなることも考えられる。低賃金で働くとなれば、ビジネスエリートのみを利するのである。

国家は、国民の幸せを、福祉を求めなければならないのに、国民を貧困化し、子供も作れない。

誰のための国なのか、ということである。一握りのエリートだけを利する国でいいのか。

実際、言いたいことも言えない社会なんて、未来は真っ暗としかいいようがない。

国家権力を持っている人間の一方的価値観を押し付けられて、一生が終わりということになる。

これでは国が進歩、発展もしないし、国民も幸福ではない。

4、人間の崇高なあり方人間の崇高な姿は、素直に、生まれつき与えられた能力を出し切って、またその能力を己自身で認識する。いくら能力があると他から評価されても、また、あるいは、能力がないのに、あるように評価されても、実際は、能力があるかないかが、現実社会で証明されてしまう。

人から評価されること、あるいは評価されないこと、について、己自身が自分の価値を知っていることが重要であるが、非常に難しい。国民一人ひとりが、自分はこのことができるかと確信することが、これからの社会で求められ、そして大事にされるべきである。

まわりに振り回されて、本当は能力があるのに、ないと思われ込まれ、自殺してしまう人々が後をたたない。

日本は、今や、年間、10万人もの人が自殺しているともいわれている。

今の日本は、政治的におかしい状況にある。大きな組織の代表やその知人であれば、準強姦罪

(強姦罪より重い罪で、薬物投与で強姦すること)を行っても、逮捕されない理由が明確にされない。

こういう権力を握れば、何をやってもお咎めなしという状況が続いている。このような由々しい事件が続いても、それを何とか正しい方向へ持っていかうとする努力は尊く求め続けなければならない。

人間には、すべて、オールマイティの能力を持った人間はいない。それに近づきたいと、日々、努力する姿が明日への希望を生み出すのである。

ただ、自分には、こういう能力が特化してあるのだということを知ることが大事である。料理人についても、他の人が作れないおいしい料理を作ることが出来る能力を持っているということである。

今の日本は、能力があるのに、ダメだ、ダメだと言われ、自信をなくさせ、そして富を少数の人たちが独占出来る方向へ持って行っている。その少数の人々が、本当に富を独り占めできるほどの能力があるのか、疑問である。

独り占めするという強欲の能力はあるとはいえるが、それが本当の実力といえるのか。死んだ後富も何の価値も持たない場所において(場所もないかもしれないが)そんなものは何の役にも立たない。

5、ひとつひとつの真実をあぶり出し、それをきっかけにして、日本の正しい国づくり、世界の正しい国づくりが考えられる優秀な人材を、私たちのリーダーとして迎え入れる必要がある。

それは選挙などで選出されるのではなく、過去に国民に多大な利益を提供した実績を持っている人材を選出すべきである。今の、お友達内閣などではなく、正義感がある清潔な人で、国や世界を憂うことが出来る能力があり、かつ人類を愛することが出来る人が、個利個略、私利私欲、我利我欲を持っている人を退かせ、代わりに国民の代表として、あるいは世界の人類の代表として、その優秀さを発揮出来るとすれば、日本は経済的にも、人間の質的にも、世界第一の国家となる筈である。

日本人は、平均して、優秀な遺伝子があったからこそ、経済大国世界第一位にもなれたのである。

まじめで、ウソをつかない人が、日本のトップ層にいたからこそである。そうすれば、人々が殺し合うこともなく、本当の平和と、人間としての能力も発揮出来、安心、安全な社会、便利で快適な社会が実現出来、自殺する人も、傭兵という職業で、お金を得るために、人を殺す職業の人も、この世からいなくなり、目出度し、めでたしになるのである。